

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 57

1957.5月(6月5日)

録 事

京都大学における会計検査のため延び延びとなっていた振興會委員会の第6回総会が5月1日別記の通り開催された。昨年度実現を見ずに終わった水族館の本格的改築計画を本年度は鋭意具体化して、各委員を始め大学の主要関係者を含めて建築委員会を組織すると共に、その原案作成、建築設計を完了と同時に施工を早めようとの積極策について、総会の席上活潑に議せられ、翌日その内相談を行った。なお当日夜7時より「白樂荘別館」にて全職員を含め一同懇談会食に楽しく時を過ごし、10時過ぎ散会した。

5月1日付で、一昨年及び昨年度の研究奨学金受領者原田英司修士(京大)が、博物館の研究員として採用された。

5月10日、本水族館より多大の援助をした神戸市立須磨水族館の開館式に、本水族館を代表して宮地会長及び原田研究員が列席した。

先般新設した二段タービンポンプ試動のため、10日納入元の橋本重工業KKより掛員が来館した。試動の結果は良好の様である。又同夕は春の行楽を橋温泉で催し、職員一同泊の閑を楽しんだ。

時岡委員は米国スクリップス海洋学研究所及びワシントン国立博物館で一年半の留学研究を終えて、5月19日無事帰白。21日その労をねぎらって観迎会を催した。

本年友の研究奨学金受給希望者は皆無かと思われたが、今月になって京都大学大学院理学研究科修士課程1回生高松史郎君(動物生理学及生態学専攻)を第2回受領者と決定した。同君の研究課題は海産稚鮎の生活場所と食性と題するもので、海産稚鮎の生産地として県下に知られる田辺湾奥部を主対象として、今後1年間、地元の協力を得て研究が開始されるはずである。これがため同君は22日始めて関係方面に連絡のため来所した。奨学金は同君の経済事情を考慮して月額8,000円と定められた。

24.25の両日、宮地会長及び時岡委員は全国臨海実験所長会議に出席した。



第 6 回 委 員 総 会 記 録

時 日：昭和 32 年 5 月 1 日 9 時～ 15 時
場 所：京都大学瀬戸焔海実験所特研会議室
出席者：宮地会長，南委員，浦委員，塚本委員，
内海委員，山路委員，布施委員，岩城監事，
生駒監事 以上 9 名
(峰尾・時岡委員，本田監事欠席)

記

1. 議長選出，新委員の紹介

- イ. 宮地会長議長に選出さる。
- ロ. 浦政吉新委員（瀬戸部代表）一同に紹介さる。

2. 議事決定

議題案の通り決定。

3. 経理報告及び事業報告

内海常務委員より昨年度の経理及び事業をかいつままで報告さる。
その前に、予算書の誤植を指摘し、訂正を求む。

4. 監査結果報告

- イ. 生駒監事より監査の時間が足りないので，出席得れば来手より監事は早くきて，総会の前日を監査にあてることを希望さる。
- ロ. 岩城監事（干后出席して監査後）より明光バス発行の入場連帯券を現金に換算して，現金収入として取扱うのは不合理との発言あり。

5. 予算案提出

- イ. 内海委員より詳細の説明あり。
- ロ. 別議題（焔時事業・諸施設改善費・奨学資金など）は後廻しとし，その他は経常費関係の全項承認。

ハ. 予算案に対する各委員の意見

（南）日本で特色のある研究所としての実をあげることが望ましい。
そのためにはパンフレットを印刷するにしても宣伝用の通俗的なものでなく，学校教育上有意義な専門的なものが必要である。
又奨学金額はあまり，当地方の地域社会に貢献するような応用面の指導，研究にも援助してほしい。

(宮地)水中カメラは万能型を望むよりも、特殊な目的が充分果せるようなものでなければならぬ。

6. 臨時事業計画

イ. 内海委員より詳細の説明あり。

ロ. 臨海浦砂防工事をやるについては、上部は簡略にして基礎工事だけは充分にしておく必要がある、之が設計は町の斎藤技師に依頼しておくとの南町長の御好意ある発言あり。

ハ. 館員の制服については山路委員よりダスターコートのようなものはどうかとの意見あり、宮地議長より着用するものの立場で着やすいものを相談して決めればよい、型は一定不変にする必要はないとの意見あり、又浦委員より川久ホテルのようなポーターの制服(赤の上衣)も、それはそれとして目立ってよいが、水族館として水族館らしい服装を工夫すればよいとの意見が出された。これらに対して内海委員は新奇を好まず、平凡ではあるが、落付いたものが望ましいと答えた。

※ 7. 諸施設改善費を事業収入の $\frac{1}{5}$ より $\frac{1}{3}$ に改めること

事業成績の状態から全員の承認を得て、本月より実施する。

但しこれに伴う予算の組替えはおこなわなければならないことを了承する。

8. 諸施設改善積立金の使途決定

諸施設改善のための積立金は現在約800万円にまわっているもので、3つの案の中、オ1案とオ3案とを折衷した形で水族館の改築を促進することに決定。即ち約250万円を以って取戻宿舎の全部(乗訪内外人の研究者のための宿泊設備と管理者の宿舎)を本年度中に完成し、残余金と本年度の積立金を以って水族館の一部の改築着工にまで押しすすめてゆく。

これがため前者の設計は京大技術課に依頼し、後者の実現のために「水族館改築委員会」を早急に結成することとなる。

9. 定員の増加

イ. 伝物館に研究員1名増——可決

ロ. 水族館に経理事務員1名増——

増員することに異議はないが、仕事の内容及び能力については再検討を要する。これにつき各委員から経理事務を取扱い監督能力のある事務長格の人をのぞむもの、潜水助手としてまた生

※ 脱着に付き挿入

三. 6項目の臨時事業は各々所要経費については検討を要する点あるも、全項承認する。

物採集も兼ねる位の若い人をのぞむという意見もあって、まとまらず。結局、時期をみて、公募し、人柄、住居の安定、技能等を考慮して採用することにする。

10. 研究奨学金規定の改訂

一昨年制定された規定によれば月額5000円であるが、その後の物価事情と応募者の経済事情をも考慮し、大体月7000～8000円の程度で支給することに決定。

11. 博物館活動のための実施行事

- イ. アクアラング技術講習会を今夏開催する。当地方の文化促進と知識の普及を目的として行なうので、ポスター或は漢協等に連絡して募集する。
- ロ. 水族館関係技術者のための臨海実習は塚で開催された第1回水族館伝物館協会の席上提案されたもので、計画が具体化して交渉があれば、本会としても応分の協力は惜まない。
- ハ. その他伝物館活動については番所山動植物園にも呼びかけて、地方文化のため積極策を講ずるようにしたい。

12. 明光バス会社の観光券支拂遅滞を改善する対策の審議

観光券の支拂は契約上毎月2回に分けて行なわれ、毎月100万円程度であったのが、前年度の抗議の効目があつて、今月は一挙に300万円支拂われた。これが将来も持続するように、監視を厳にし、毎月強く明光側に交渉するを要する。これより他に有効と思われる積極的な案は出なかった。

13. 番所山動植物園との連帯券及びその取扱いに関する審議

現在は植物園との間に連帯契約はできているが、動物園とはしていない。しかし事実上は動物園は植物園の中に含まれるので、先方から申出さえあれば、動植物園として連帯する限りでは契約の上から大きな問題とはなり得ない。

但しその場合は“植物園”を“動植物園”と書きかえ、又料金も40円を70円に書きかえる必要がある。

その場合、出札の手数が更にふえ、観客に抱きあわせを強制することになり、現在の窓口及びシステムでは技術的に困難であるので、この問題は今後もつと研究する必要がある。

14. 町当局及び観光協会に対する要望

- イ. 水道は8月頃完成の見込みであるとのこと。
- ロ. 公衆便所の設置は汲取り、掃除、敷地等でどこでも問題になっているので、町としての着手は今のところ見込みがない。
- ハ. 実験所前へモータープールを設置することは、町としても予定している由。

15. 常務委員の交代

内海常務委員より就任が長期にわたる(昭和29年5月以来)のと健康上の問題を理由に辞任の申出であり、一同了承、次期後任は時岡委員の帰朝を待って実験所委員で相談して決定する。

16. 其の他

宮地会長よりDr. A.C. Hardy が今秋来日する予定で、その時の関西旅行費を振興会で受け持つてほしいとの要望あり、その必要あれば招待費から支出することにする。

岩城委員より町当局の紹介による観光客には入場料の規定によらずして、便宜を計ってほしいとの要望あり、了承する。



業務概況

◎ 5月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	9950	23898	21139	47916	31089	71814
小 人	276	1829	176	925	452	2754
団 体	21055	39595	—	—	21055	39595
合 計	31281	65322	21315	48841	52596	114163
無料入場者					0	608

団 体： 一般 236組、学生 43組、 計 279組

◎ 5月の事業収入

		(今年度累計)
観覧券売上金	966,639	2,104,102
予金積立金利息	27,000	207,000
雑 収 入	500	540
計	994,139	2,311,642

◎ 5月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	69,336	132,897	
会 議 費	49,538	49,838	振興会総会費用、林野等
備 品 費	—	4,600	
消 耗 費	9,635	18,525	
事 業 費	62,570	118,645	
維 持 費	2,310	40,395	
其 他 諸 経 費	24,249	33,482	春の行楽費等
積 立 金	195,737	425,639	
合 計	413,375	824,021	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
奨 学 金	—	5,000	
備 品 費	88,965	88,965	※
消 耗 費	600	600	
合 計	89,565	94,565	

※ 1. キャンユニバーサルファイター etc.

2. Discovery Report 他

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	18,200	23,200	
備品費	246,230	246,230	*
消耗費	6,270	6,270	
役務費	1,600	1,600	
合 計	272,300	277,300	

- * 1. 椅子及び応接台
2. ローライフレックス, ローライマリン

臨時費

場 所	金 額	累 計	備 考
館員制服調整	5,8420	5,9940	
合 計	5,8420	5,9940	

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	413,375	824,021
実験所経費	89,565	94,565
博物館経費	272,300	277,300
臨時費	58,420	59,940
計	833,660	1,255,826

◎ 5月末現在高

前月からの繰越	3,271,449
今日の収入合計	994,139
今日の支出合計	833,660
現 在 高	3,431,928

◎ 前年度との比較

	1956	1957	増 減
入場者数	49582	52596	+ 3014
売上金	901,690	966,639	+ 64,949
支出金	591,612	833,660	+ 242,048

水族館記事

- ◎ 昨年8月9日に入れたオオセが4～5月中に相次いで9匹の仔(4月28日3匹, 1日2匹, 9日2匹, 20日1匹, 30日1匹)を産んだ。水槽内で生れることは珍しいので、館員が夜昼観察を続けている。オオセの仔は昼間はジッと動かず夜になると盛んに活動し、シロ等を丸呑みするがその他のものはとらない。
- ◎ 2日アカウミガメ1匹, カノコイセエビ1匹死亡。
- ◎ 7日ウマツラハギ2匹入槽, 須磨水族館よりの贈物マダコ6匹を入れる。
- ◎ タカアシガニの最後の1匹(♀)が15日死亡した。甲殻類の相対成長を研究しているパリー大学のDr. R. Lavallardの所望により、その鉗を固定して、贈ることにした。
- ◎ 19日スズキ1匹死亡。
- ◎ 23日カスサメ1匹死亡。
- ◎ 28日アオリイカの卵囊を入槽。
- ◎ 29日4匹, 30日5匹とドチザメの仔が生れたが、向もなく親子共死亡。
- ◎ 30日ノコギリガザミ1匹, ハモ1匹入槽。

博物館記事

- ◎ 今月より博物館の研究室の整備・修理に着手する。研究用机, 標本棚を修理すると共に, 応接台及びネコス椅子2脚を備えつける。
- ◎ 13日長さ60cmにあまる巨大な赤色の美しいヤマトメリベが網不知の漁夫によって採られ, 寄贈をうけたので, 早速カラーフィルムに撮った後, 剥製標本として展示する。
- ◎ なお珍しいハナデンシャ, ニシキウミウシのような美しいウミウシも裏の地引網で採れたので, 飼育後, 死亡した個体を標本として保存する。

資料

◎ 5月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(18)	4	6	8
気温(℃)	$\frac{14.8 \sim 20.0}{17.8}$	$\frac{16.5 \sim 21.9}{19.0}$	$\frac{19.0 \sim 21.4}{20.4}$
水温(℃)	$\frac{18.1 \sim 19.1}{18.7}$	$\frac{18.2 \sim 20.2}{19.1}$	$\frac{19.1 \sim 22.0}{20.5}$
比重	$\frac{22.1 \sim 25.1}{24.2}$	$\frac{23.2 \sim 25.2}{24.4}$	$\frac{24.4 \sim 25.0}{24.5}$

気温は南水槽室
 但し水温 } No.25水槽
 比重 }
 で9時測定

来訪録

5月7日 須磨水族館の奥野良之助氏、神戸交通局調友課の森武文氏が10日の開館式にそなえて魚类的調達に見えたので、タイマイ、アカウミガメ、クエ、エビスダイ等19種147尾の調達を譲渡した。

昭和32年6月5日 (No. 57)

編集兼
 発行者
 発行所

内海 富士夫
 神戸 須磨 海山 突 駿所 浜内 泉
 和歌山 瀬戸 瀬戸 瀬戸 瀬戸 瀬戸
 (Tel. 日 洪 温 泉 515)